

2018年7月12日
北辰会事務局前田直人

富山市在住の 北辰会常任幹事 26期岡田美乃利さん からの報告

～水橋橋まつり「150年祭記念誌」編集し発行致しました～

上記の記念誌が事務局に送られて来ました。先に「北宸Ⅴ」～ほたるに雪に～で北辰会の歴史、人を纏めた文集で発行した事務局は興味を持って読ませて頂きました。その感想を記したいと思います。

岡田さんは「水橋橋まつり」150年祭実行委員会の実行委員、記念誌編集委員長として記念誌編集、発行を担当されました。

岡田さんは北野高校定時制在学中、新聞部に在籍された経歴があります。北辰新聞(生徒自治会発行)や文化祭やクラスの文集などでも力を発揮されたことでしょう。

「水橋橋まつり」の記念誌はA4サイズ36ページでカラー刷りのこじんまりした冊子です。

肩がこらず、一気に楽しく読めました。これだったら中学生以上の方々、歴史に興味ある方、無い方も楽しく読めると思いました。

人口1万6千人の町単位で「水橋橋まつり」が150年継続されている事に単純に驚きました。京都市には日本を代表する「祇園祭」がありますが、中身はそれと比較しても決して見劣らないと思いました。地域の広さ、それに関わる人の層、地域振興会、商工会、小中高校、マスコミ、地域を網羅しています。子供から大人までが準備から後かたづけに参加しています。新興住宅街に住み、盆祭り、官制の文化祭しか知らない私には驚きでした。

記念誌には水橋地域は古墳時代からの歴史がある。その中での「橋」の存在とその重み、「橋まつり」の起源を大事にして地域で守り、継続したことが述べられています。

この冊子を地域全戸と小中高生に配り、地域のシンボル、次代に引き継ぐ努力がなされています。

スケールは小さいですが、北辰会が会員皆様のオアシスとして取り組んでいる事と、オーバーラップ致しました。

「水橋が大好きです。誇りです。皆と一緒にのお祭り楽しいなあ～」と言う、家庭や児童が増えるような予感を感じさせる記念誌でした。

小学校の校長先生から授業に使いたいと言う意見が出ているそうです。

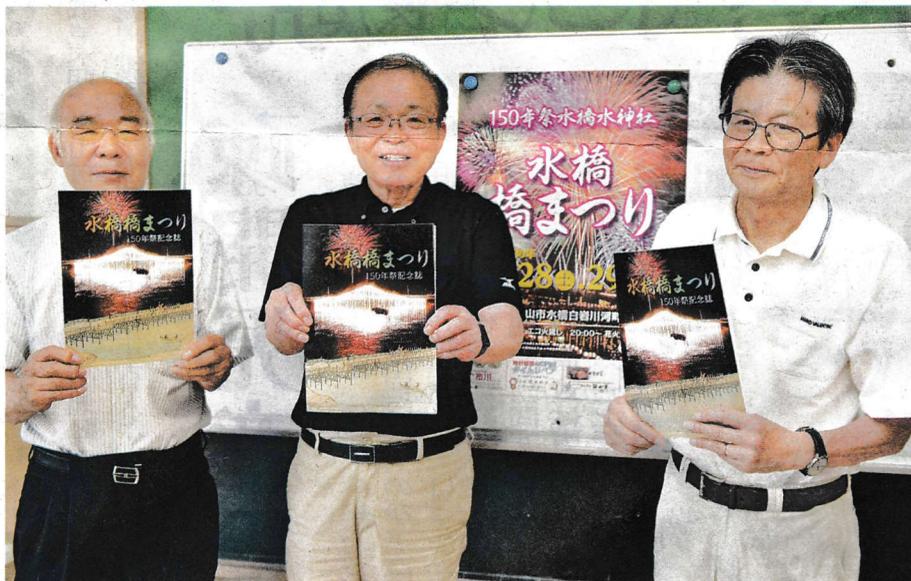
是非ともインターネットで「水橋橋まつり」を検索し「橋150年祭記念誌」を読み出してお読みください。お勧め致します。



岡田美乃利 常任幹事 (26期)

150年記念誌完成 全戸配布

水橋橋まつり 次世代へ



記念誌を紹介する岡田委員長（中央）ら

28、29の両日に富山市水橋地区で開かれる「水橋橋まつり150年祭」を前に、まつりの実行委員会は記念誌を作った。地区全体の約7千世帯や小中学校、高校に配布した。

150回の節目に合わせてこれまでの歴史をまとめ、次世代にも記録を残していこうと記念誌編集委員会（岡田美乃利委員長）の4人が中心となり編さんした。全36ページで構成。まつりの起源や、

会場である東西橋が完成するまでの経緯を細かく記した。約50年前のまつりや昭和初期の水橋の街並みがうかがえる写真などを多く掲載しており、地区の歴史も分かる。記念誌は、同まつりホームページからもダウンロードして閲覧できる。

綱引きや講演 多彩 28、29日 橋まつり

水橋橋まつり150年祭の全体会議が11日、同市北商工会水橋支所であり、関係者が行事内容などを確認した。

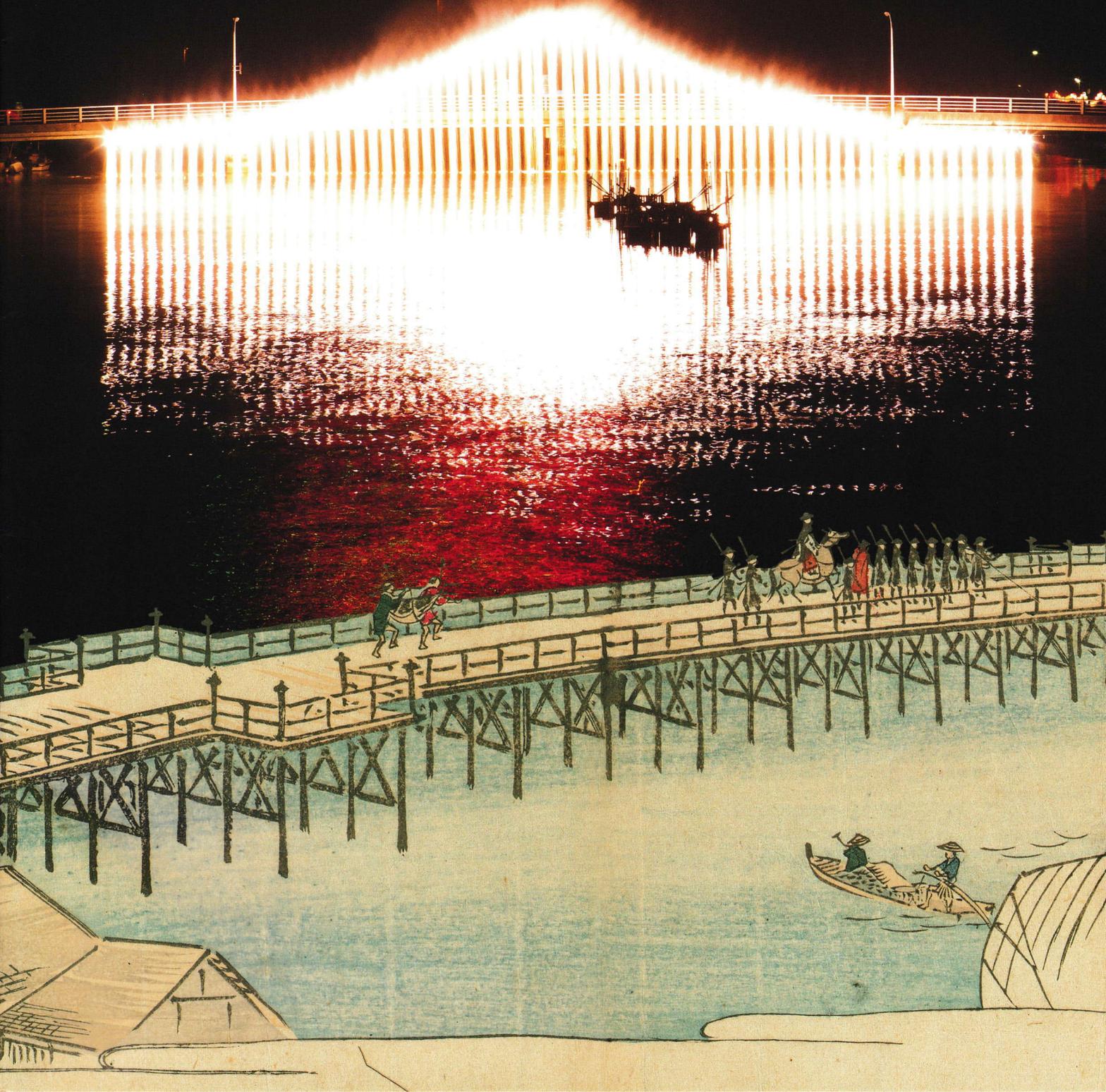
実行委員会メンバーや協力企業などの約40人が出席。同まつり協議会の鹿熊兼一会長と、丸山繁二実行委員長が「一大イベントを成功させたい」とあいさつした。

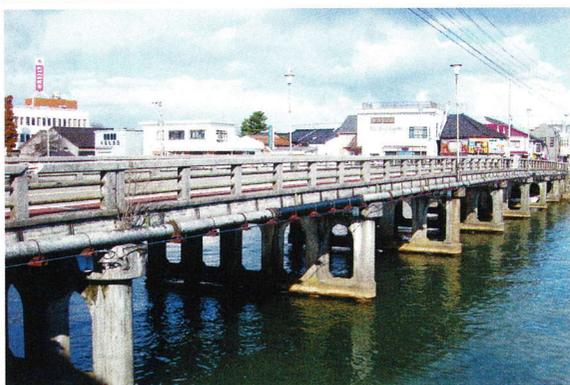
28日は昨年のプレ大会に続き、水橋地区5校区対抗綱引きを第1回大会として東西橋で行う。29日には水橋ふるさと会館「相山ホール」で、水橋ゆかりの角川歴彦KADOKAWA会長や、橋まつりのきっかけとなった立山橋（現東西橋）の建設を中心となって推し進めた故伊藤敬三さんの末裔、伊藤昭さんの講演会を開催する。



水橋橋まつり

150年祭記念誌





橋まっりの歴史を知る

2018(平成30)年は、1869(明治2)年に現在の東西橋の前身となった立山橋が架けられてから150年の節目を迎える年となります。立山橋の架橋には、資金の調達や材木の輸送など多大な労力がかけられ、余材により水神社が建立され、祭礼が行われるようになりました。当時の人々の思いが込められた「火流し」は、現在も橋まつりによって多くのイベントとともに受け継がれています。

橋まっりの起源と火流し

立山橋の完成と水神社の建立

現在の東西橋の前身である立山橋架橋の歴史は、幕末までさかのぼります。1867(慶応3)年は、10月に大政奉還、翌年1月には戊辰戦争等が続く激動の時代真ただ中で、1865(慶応元)年12月に提出した「定舟橋(臨時でなく、常に懸かっている舟橋)懸け渡し請願書」は保留されたままでありました。1868(慶応4)年7月、新川郡奉行所より「架橋か定舟橋かその設定場所は」との問いがあり、東西水橋より別々に、東長江村上条組十村の金山十左衛門宛てに見積書を提出しました。

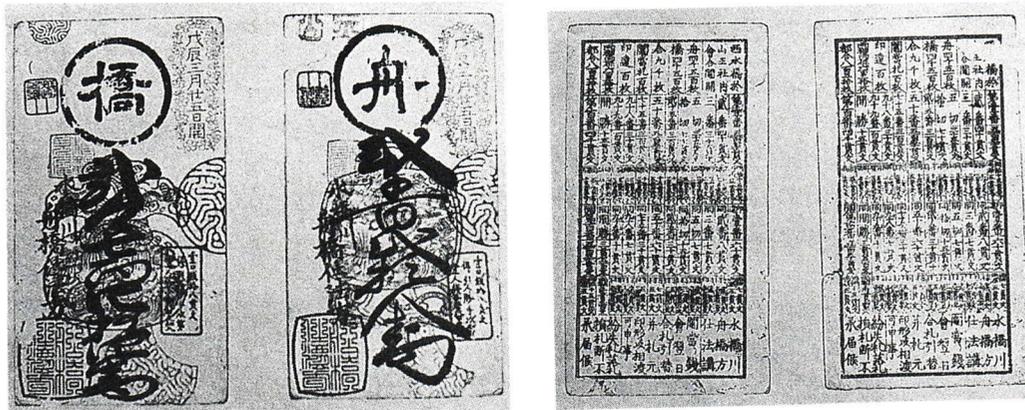
1868(明治元)年10月には、水橋川橋方主附(架橋の責任者)より架橋と答申し、架橋が決定しました。

当時の常願寺川下流は、現在の常願寺橋右岸念法寺の辺りから徐々に東側に曲がって水橋駅を通り、畠等の八幡社後方、水橋大橋の少し上流で白岩川と合流し、川幅約200～250mとなって流れ、この合流地点より河口までを水橋川と呼んでいました。そこに架ける立山橋は、当時国内最長級の橋であり、それに携わる人材や資金・資材をどの様に調達するかが問題で、まず人材は、水橋川橋方主附として、生地村十村の田村前名、東長江村十村の倅金山十郎兵衛の2人が工事施工責任者、石割村十村の倅杉木弥八郎が会計責任者、山廻り役の西水橋半七郎(伊藤半七郎、後の伊藤敬三)が伐木責任者と決まり、棟梁は生地村の浅右衛門、副棟梁には東水橋の吉兵衛が選ばれました。

工事中には、橋の勾配を算出することができず、副棟梁の次男を江戸へ技術の習得にやり、帰ってから算出したとのことで、また暴れ川のため、橋杭を打つのに難渋したとのことです。

資金調達の手段として、富くじの発行がありました。1865(慶応元)年に定舟橋計画があったことから、地元より富くじの発行願いを新川郡奉行所に提出していたため、架橋に着手する10カ月前より許可されていました。

富くじの発行は、東西水橋をはじめ、東岩瀬、滑川、三日市、泊でも行い、28,040貫文余りの収入を得ました。献銭(寄付金)も水橋以外に、東岩瀬、滑川の方々にもお願いし7,866貫文弱、残材の払下げで3,035貫文弱、射水七浦(海老江、放生津、六渡寺、伏木、高



資金調達手段として発行された富くじ

水橋橋まつり150年祭記念誌座談会

「橋まつりを語る」

日時：2018年3月20日(火) 13:00～

場所：富山市北商工会水橋支所



座談会参加者と記念誌編集委員

参加者：大村 歌子（富山県近代史研究会会員）
岡本 利夫（元水橋商工会会長）
菊地 徳男（水橋薬業会会長）
司 会：岡田美乃利（記念誌編集委員長）

土井 修（郷土史研究者）
濱田 康治（水橋ふれあいコミュニティバス理事）
久呂 忠行（水橋橋まつり実行委員）

司会 本日はお忙しいところをありがとうございます。お集まりいただいた皆さんは、これまで様々な立場から橋まつりに関わってこられました。まず簡単な自己紹介をお願いいたします。

大村 川原町の大村歌子と申します。橋まつりとは、水橋の歴史を郷土歴史会で研究してきたなかで関わってきました。よろしくお願いいたします。

岡本 岡本です。橋まつりとの関わりは長く、水橋の商工会長を務めたことから、いろんなことを経験してきました。よろしくお願いいたします。

菊地 菊地徳男でございます。昭和48年から、橋まつりの実行委員会として関わりを持ってきました。

土井 土井修と申します。今回は岡田編集委員長のご紹介で参加させていただくことになりました。私はこのメンバーの中で一番若いのですが、色々意見を言ってくださいということで、よろしくお願いいたします。

濱田 濱田康治と申します。私は大正町で12年間町内会長をしておりまして、毎年火流しの舟を出しておりました。

よろしくお願いいたします。

久呂 久呂と申します。私は橋まつり実行委員を7年ぐらいいやっております。また主に小学生向けにバイオ燃料の授業をやっております。よろしくお願いいたします。

懐かしい橋まつりの思い出

司会 最初に、各自の橋まつりの思い出を語っていただきたく思います。

大村 私は水橋川が明治26年に分川されて、川の跡、埋め立てられたところで生まれまして、70年あまり、水橋で過ごしてきました。思い出となると、やはり花火が上がる、流し火が流れる、人が集まる、というそういう風景がずっと続いてまして。40年代に花の井町ができる時点で花火の上がる場所が変わりました。そういうのを見てきてますけれども、花火はぼつんぼつんと上がってましてね。子供心に楽しいお祭りでした。最近は音楽に合わせて水上花火が賑やかに鳴り出しますと、家にもその明かりでびっくりするくらいになっています。